

※受理年月日	
※処理年月日	

# 中 長 期 計 画 書

地方運輸局長 殿

○年 ○○月 ○○日

企業の代表者以外の者が省エネに係る諸手続の委任を受ける場合は委任状を添付。既に委任状を提出している場合は、その写しを添付してください (様式任意)。	住 所 ○○県○○市○○町○○番地 法人名 株式会社省エネ運送 法人番号 ○○○○○○○○○○○○ 代表者の役職名 代表取締役 代表者の氏名 省エネ太郎	国税庁 HP に掲載されている 13 桁の法人番号を記入してください。
--	--	-------------------------------------

エネルギーの使用の合理化及び非化石エネルギーへの転換等に関する法律第 135 条の規定に基づき、次のとおり提出します。

I 認定管理統括貨客輸送事業者の名称等

認定管理統括貨客輸送事業者 指定番号	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○
事業者名	株式会社省エネ運送
主たる貨客輸送区分	1. 鉄道による貨物の輸送 2. 事業用貨物自動車による貨物の輸送 3. 自家用貨物自動車による貨物の輸送 4. 船舶による貨物の輸送 5. 鉄道による旅客の輸送 6. 乗合自動車による旅客の輸送 7. 乗用自動車 (乗合自動車を除く。) による旅客の輸送 8. 船舶による旅客の輸送
主たる事務所の所在地	〒○○○-○○○○ ○○県○○市○○町○○番地 電話 ( ○○○ - ○○○ - ○○○○ ) FAX ( ○○○ - ○○○ - ○○○○ ) e-mail ( ○○○○@○○○ )
中長期計画書の提出免除の希望	中長期計画書の提出頻度の軽減の条件に該当しており、当該条件を満たす限り、翌年度以降は下記の計画期間中の中長期計画書の提出免除を <input type="checkbox"/> 希望する

該当する区分を○で囲んでください。

FAX、e-mail については、利用可能な場合記載してください。

エネルギーの使用の合理化及び非化石エネルギーへの転換等に関する法律の規定に基づく輸送事業者に係る届出等に関する省令第 19 条第 2 項に規定する中長期計画書の提出免除の条件 (5 年度間平均エネルギー消費原単位又は電気需要最適化評価原単位を年 1%以上低減) を満たし、「II エネルギーの使用の合理化に関する計画」の項目について提出免除を希望する場合はチェックしてください。

II エネルギーの使用の合理化に関する計画

1. 計画期間

2023年度 ~

2027年度

当該年度から3~5年程度

対策の種類別に、主要なものを記載してください。欄が足りない場合は、行を追加してください。

2. 計画内容及びエネルギー使用合理化期待効果

対 策	計 画 内 容	実施時期	エネルギー使用 合理化期待効果 (原油換算 kl/年)
新型機関車の導入	新形式電気機関車の導入 30両	2023~2026年度	〇kl/年
低燃費車の導入	ハイブリッド車の導入 5台 トッランナー基準達成車の導入 10台	2023年度 2025年度	原単位〇%向上
新造船の導入	電気推進フェリー 1隻	2025年度	〇kl/年
エコドライブの実施	年4回運転者向けのエコドライブ研修会の実施 デジタコ走行データによる個別指導の実施	2023年度	〇kl/年
配船の効率化	積載効率向上及び復路貨物の確保	毎年度	原単位〇%向上

kl/年だけでなく、原単位等他に適切な単位、指標がある場合にはこれを用いることも出来ます。またあくまで見込み値で構いません。

3. 前年度計画書との比較

計画初年度は記載不要です。2年度目以降から記載してください。

対 策	削除された計画	理 由
船底クリーニングの実施	2023年度 フェリー2隻	実施済みであるため。
対 策	追加された計画	理 由
低燃費車の導入	トッランナー基準達成車の導入 10台	技術開発が進み、導入の見込みが立ったため。

4. その他計画に関する事項

2.に記載した計画に関連する上位の計画や個々のエネルギー使用合理化期待効果が算定できないような取組体制等の計画等がある場合は記載してください。

〇〇グループでは、グループ会員全社が環境基本対策にしたがって、環境に優しい取組を進めています。

参考資料：

〇〇グループ環境基本対策

### Ⅲ 非化石エネルギーへの転換に関する計画

#### 1. 計画期間

2023年度～

2030年度

計画内容に変更なし

前年度から計画内容に変更がない場合はチェックしてください。最後に提出してから5年を超えない範囲内で、「Ⅲ 非化石エネルギーへの転換に関する計画」の項目について計画期間中の提出免除を受けることができます。

判断基準を踏まえて、計画期間は～2030年度としてください。それ以外の年度とする場合は、その理由を5.に記載してください。

#### 2. 非化石エネルギーへの転換の目標

##### 2-1. 定量的な目標

##### (1) 貨物輸送に係る電気車における非化石電気の使用割合

	目標
	2030年度
<ul style="list-style-type: none"> <li>・<input checked="" type="checkbox"/>使用電気全体（自家発電を含む。）</li> <li>・<input type="checkbox"/>外部調達電気</li> </ul> に占める非化石エネルギーの割合	59%

貨客輸送区分が  
 1（貨物鉄道）の場合：(1)を、  
 2又は3（貨物自動車）の場合：(2)及び(3)を、  
 5（旅客鉄道）の場合：(4)を、  
 6又は7（旅客自動車）の場合：(5)及び(6)を記載してください。  
 ※(7)については、1～8いずれの輸送区分においても、任意で記載してください。

備考 非化石電気の割合（使用電気全体（自家発電を含む。）外部調達電気）は、記載する項目に■印を付すこと。

計画期間の最終年度における目標を記載してください。

計画期間の最終年度における目標を記載してください。

##### (2) 非化石エネルギー自動車の使用割合（車両総重量8トン以下の貨物自動車）

区分	目標	
	2030年度	
電気自動車	①	〇台
水素自動車 （燃料電池自動車を含む。）	②	〇台
プラグインハイブリッド自動車	③	〇台
専らバイオ燃料・合成燃料を使用する自動車	④	〇台
非化石エネルギー自動車の合計	⑤ = ①+②+③+④	10台
貨物輸送に使用する自動車の合計	⑥	200台
非化石エネルギー自動車割合	⑦ = ⑤/⑥×100	5%
（参考）ハイブリッド自動車	⑧	10台
（参考）電動車割合	⑨ = (①+②+③+⑧) / ⑥ × 100	9%

##### (3) バイオ燃料・合成燃料を使用する自動車（車両総重量8トン以下の貨物自動車）に係る参考情報

燃料の種類 （バイオ燃料又は合成燃料）	混合割合	目標年度における バイオ燃料又は合成燃料の 使用量の見込み	目標年度における 台数の見込み
バイオ燃料	40%	〇kl	1台
合成燃料	50%	〇kl	1台

(4) 旅客輸送に係る電気車における非化石エネルギーの使用割合

	目標
	2030年度
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ <input checked="" type="checkbox"/> 使用電気全体（自家発電を含む。）</li> <li>・ <input type="checkbox"/> 外部調達電気</li> </ul> に占める非化石エネルギーの割合	59%

計画期間の最終年度における目標を記載してください。

備考 非化石電気の割合（使用電気全体（自家発電を含む。）又は外部調達電気）は、記載する項目に■印を付すこと。

計画期間の最終年度における目標を記載してください。

(5) 非化石エネルギー自動車（バス、タクシー）の使用割合

区分	目標	
	2030年度	
電気自動車	①	〇台
水素自動車 (燃料電池自動車を含む。)	②	〇台
プラグインハイブリッド自動車	③	〇台
専らバイオ燃料・合成燃料を使用する自動車	④	〇台
非化石エネルギー自動車の合計	⑤ = ①+②+③+④	28台
旅客輸送に使用する自動車の合計	⑥	350台
非化石エネルギー自動車割合	⑦ = ⑤ / ⑥ × 100	8%
(参考) ハイブリッド自動車	⑧	13台
(参考) 電動車割合	⑨ = (①+②+③+⑧) / ⑥ × 100	10%

(6) バイオ燃料・合成燃料を使用する自動車（バス、タクシー）に係る参考情報

燃料の種類 (バイオ燃料又は合成燃料)	混合割合	目標年度における バイオ燃料又は合成燃料の 使用量の見込み	目標年度における 台数の見込み
バイオ燃料	40%	〇k1	4台
合成燃料	50%	〇k1	2台

判断基準の内容を参考に、主要なものを記載してください。欄が足りない場合は、行を追加してください。

(7) その他定量的な目標

年度	内容	目標数値
2026年度	(鉄道による輸送を行う事業者の例) 水素燃料電池車両の導入割合	保有車両の1%
2027年度	(乗合自動車による輸送を行う事業者の例) EVバスの導入台数	10台
2027年度	(乗用自動車による輸送を行う事業者の例) 合成燃料を使用するタクシーにおける混焼率	60%
2030年度	(船舶による輸送を行う事業者の例) 保有船舶におけるバイオ燃料の活用	保有隻数の30%

計画期間中の年度を記載してください。

2-2. 定性的な目標

判断基準の内容を参考に、主要なものを記載してください。欄が足りない場合は、行を追加してください。

年度	内容
2028年度 ~2029年度	(鉄道による輸送を行う事業者の例) 運行に係る電力について、再エネ電力メニューに切り替える
2028年度	(貨物自動車による輸送を行う事業者の例) 大型トラックにおける電気自動車の導入
2029年度 ~2030年度	(貨物船舶による輸送を行う事業者の例) 〇〇港から〇〇港における定期貨物輸送便について、使用する船舶にバッテリー船を導入する。

計画期間中の年度を記載してください。

判断基準の内容を参考に、主要なものを記載してください。欄が足りない場合は、行を追加してください。

3. 目標を達成するために取り組む措置 (計画内容)

内容	実施時期
〇〇における太陽光発電設備の導入	2024年度
燃料供給会社と協力し、〇〇エリアに水素ステーションを整備する。	2025年度
〇〇の導入に向けた実証実験を行う。	2026年度~2027年度
非化石転換に向けた計画検討のため、荷主等関係者間での打合せ開催	月1回

4. 前年度計画書との比較

計画初年度は記載不要です。2年度目以降から記載してください。

削除された目標・取組措置	理由
(貨物自動車による輸送を行う事業者の例) EV 小型トラック 5台導入	2026年度に実施したため。
追加された目標・取組措置	理由
〇〇における太陽光発電設備の導入	太陽光発電設備のための資金が集まり、設備投資の見通しが立ったため。c

5. その他非化石エネルギーへの転換に関する事項及び参考情報

・〇〇事業において非化石エネルギー車両の技術開発を実施。  
参考資料：2021～2026年度 〇〇事業 〇〇〇開発

・自社におけるEV 小型トラック等の導入だけではなく、〇〇会社と協力し、実証実験をおこなったところ、〇〇～〇〇間においては、鉄道にて輸送した方が、輸送全体で使用するエネルギー量に占める非化石エネルギーの割合が高いことが分かった。

・自社の〇〇計画における計画期間との整合を取るため、非化石エネルギーへの転換に関する計画期間を2030年度までではなく2027年度までとした。

2. に記載した目標に関連する上位の計画・目標や、その他非化石エネルギーへの転換に資する事業の取組概要等を記載してください。

備考

- 1 用紙の大きさは、日本産業規格A4とすること。
- 2 該当事項はその直前に付してある番号を○で囲むこと。
- 3 計画書冒頭の※印を付した欄には記入しないこと。
- 4 IIの2の「計画内容」の欄については、対策の種類別に記入すること。
- 5 IIの2の「エネルギー使用合理化期待効果」の欄には、基準年度を報告年度とし、計画完了年度における年間エネルギーの使用の合理化効果を原油の数量に換算して「k1」により記入すること。
- 6 IIの3及びIIIの4には、IIの2並びにIIIの2及び3について、それぞれ前年度と比較して記入すること。なお、該当する対策が複数になる場合には、新たに欄を設けて記入すること。
- 7 IIの4には、IIの2の欄に記入した計画に関連する上位の計画（グループ企業全体に関連するプロジェクト、全体計画等）がある場合には、必要に応じ、その計画内容及び計画における当該事業者の位置付け等について記入すること。また、この欄のみでは記入が困難な場合には、関係資料を添付すること。
- 8 IIIの2-1（2）及び（5）の「非化石エネルギー自動車」とは、電気自動車、水素自動車（燃料電池自動車を含む。）、プラグインハイブリッド自動車及び専らバイオ燃料・合成燃料を使用する自動車をいう。「目標」の欄には、それぞれ値を記入すること。
- 9 IIIの2-1は、Iの「貨客輸送区分」が1の場合は（1）及び（7）を、2又は3の場合は（2）、（3）及び（7）を、5の場合は（4）及び（7）を、6又は7の場合は（5）から（7）までを記載すること。